

2月11日(土)

第2会場

13:20~14:50

国際会議室

植込みデバイス手術手技の実際

## 【概要】

植込みデバイスは徐脈性不整脈に対するペースメーカーにはじまり、その機能を拡張させることで、頻脈性不整脈に対して植込み型徐細動器（ICD）が開発され、心臓突然死の予防が可能となった。さらに、薬物抵抗性心不全に対して、心臓再同期療法（CRT）、両室ペーシング機能付き植込み型徐細動器（CRT-D）が開発され、多くの心不全死や突然死の予防が可能となった。これらのデバイスは、近年の大規模試験の結果により、従来の概念が覆され、日々、機能、植込み部位、植込み方法が進化している。ICDの検討から、右室心尖部での心室ペーシング率が上昇すると、心機能を悪化させることが明らかにされた。その理論の根底には、幅広いQRS波が心不全を惹起する一連の経緯があり、これを是正するCRTの原理が存在する。また、逆にICD、CRTの検討から、ペースメーカーの心室リード留置部位の検討や心室ペーシング抑制のアルゴリズムが開発された。このように、各種デバイスは相互関連の中で影響し合い、その概念から、植込み手技までもが変化してきている。近年、軽症心不全に対するCRTの有効性が示され、その需要はますます増加しつつある。しかし特にCRT/CRT-Dはペースメーカー、ICDに比べ植込み手技も複雑であり、当然のことであるが対象が高度な低心機能症例であるため、心不全増悪の危険を避けるべく手術手技は要領よく速やかに、より短時間に行うことが要求される。このセッションでは、デバイス植込み手技に関して、その基礎から応用までを検討し、明日からの植込みに役立つ情報を提供したいと考えている。

〔座長〕野呂 真人 東邦大学医療センター大橋病院循環器内科  
中井 俊子 日本大学医学部内科学系循環器内科学分野

## 1. ペースメーカー/ICDの植込み手術手技

尚誠会 松本クリニック ○須藤 恭一

## 2. CRTの植込み手術手技

名古屋第二赤十字病院循環器センター内科 ○吉田 幸彦